

(様式第 9)

番 号
平成 24 年 10 月 2 日

関東信越厚生局長 殿

開設者名 学校法人 日本医科
理事長 赫 彰

日本医科大学付属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 23 年度の業務
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照（様式第 10）
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照（様式第 11）
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	78人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照（様式第 12）
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照（様式第 13）
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	543人	33.6人	576.6人	看護補助者	67人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	0人	0人	0人	理学療法士	8人	臨床検査技師	94人
薬 剤 師	50人	0人	50人	作業療法士	2人	衛生検査技師	0人
保 健 師	164人	0人	164人	視能訓練士	6人	その他	0人
助 産 師	17人	0人	17人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	7人
看 護 師	949人	4.1人	953.1人	臨床工学技士	21人	医療社会事業従事者	7人
准 看 護 師	2人	0人	2人	栄 養 士	3人	その他の技術員	11人
歯科衛生士	0人	0人	0人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	157人
管理栄養士	7人	0人	7人	診療放射線技師	61人	その他の職員	72人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	834.3人	人	834.3人
1日当たり平均外来患者数	1917.4人	人	1917.4人
1日当たり平均調剤数	10,027 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数（毎日の 24 時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	14人
骨髄細胞移植による血管新生療法	2人
腹腔鏡補助下膵体尾部切除又は核出術	14人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	3人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
頸部内視鏡術、甲状腺濾胞腺腫、腺腫様甲状腺腫、パセドウ病又は原発性上皮小体機能亢進症	57人
急性心筋梗塞に対するエポエチンベータ投与療法 急性心筋梗塞(再灌流療法の成功したものに限り)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。
(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	修正型通電療法	取扱患者数	400人
当該医療技術の概要 修正型通電療法は全身麻酔下でパルス波治療器を用いて電極シールを両側額部に貼り、交流電流を通電することで脳神経細胞を刺激し、うつ病や緊張症などの病状を改善させる治療法です。精神神経科は都内でも有数の治療歴があり中高年の身体合併症のある患者さんに積極的に使用し高い改善率がみられています。			
医療技術名	低侵襲心房細動手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 側開胸及び小切開で行う外科アブレーション。			
医療技術名	メッシュ手術	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 骨盤臓器脱に対する術式。本来の膹形成術に加えて再発を減らす術式。			
医療技術名	不育症に対するヘパリン療法	取扱患者数	200人
当該医療技術の概要 不育症に対するアスピリン、ヘパリン併用療法にて生児獲得率が上昇することが知られており、適応患者には自費あるいは保険で対応している。			
医療技術名	遺伝子診断(患者組織血液検体)による肺癌個別化治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 EGFR、ALK遺伝子、MET遺伝子を中心に薬剤感受性、耐性因子、副作用予測も検索し、肺癌科学療法及び分子標的治療薬の選択を行っている。			
医療技術名	ECMO(Extracorporeal Membrane Oxygenation)による重症呼吸不全、循環不全への治療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 重症呼吸不全、循環不全例に対しECMOによる呼吸、循環補助を行う。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	29人	・膿疱性乾癬	0人
・多発性硬化症	41人	・広範脊柱管狭窄症	6人
・重症筋無力症	59人	・原発性胆汁性肝硬変	42人
・全身性エリテマトーデス	81人	・重症急性膵炎	7人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	23人
・再生不良性貧血	39人	・混合性結合組織病	7人
・サルコイドーシス	115人	・原発性免疫不全症候群	5人
・筋萎縮性側索硬化症	14人	・特発性間質性肺炎	19人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	32人	・網膜色素変性症	13人
・特発性血小板減少性紫斑病	73人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	11人	・肺動脈性肺高血圧症	0人
・潰瘍性大腸炎	112人	・神経線維腫症	4人
・大動脈炎症候群	16人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	19人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	17人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	5人
・脊髄小脳変性症	33人	・ライソゾーム病	4人
・クローン病	47人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	31人	・脊髄性筋萎縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	88人	・球脊髄性筋萎縮症	2人
・アミロイドーシス	5人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	21人
・後縦靭帯骨化症	14人	・肥大型心筋症	13人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	2人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	14人	・ミトコンドリア病	3人
・ウェゲナー肉芽腫症	4人	・リンパ管筋腫症(LAM)	3人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	65人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	16人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	175人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	・
・乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1ヶ月に5回程度
部 検 の 状 況	部検症例数 57例 / 部検率 8.0%

(様式第 11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
下垂体腺腫におけるmiRNA発現とmRNAの制御に関する研究	寺本 明	脳神経外科	585万	補委 文部科学省
アミロイド分子イメージングによる中高年うつ病のアルツハイマー病前駆病変の検出	大久保 善朗	精神神経科	559万	補委 文部科学省
難治性膵がんに対する革新的膵灌流療法の開発と臨床応用に関する研究	村田 智	放射線科	884万	補委 文部科学省
難治性血管炎に対する新規治療法開発	高木 元	一般・循環器・ 肝臓内科、 再生医療科	91万	補委 文部科学省
ポテンシャルドナーを増やすための補助検査を用いた脳死判定に関する研究	横田 裕行	高度救命救急 センター	52万	補委 文部科学省
MCP-1を介した間葉系幹細胞による胃癌組織へのホーミング分子機構の解析	二神 生爾	血液・内分泌代謝・ 消化器内科	104万	補委 文部科学省
シグナル情報解析を用いた肺癌分子標的治療感受性予測法の開発とイメージング	弦間 昭彦	呼吸器内科	91万	補委 文部科学省
肺癌に対するマイクロRNAを用いた薬剤感受性予測と治療法の開発	清家 正博	呼吸器内科	78万	補委 文部科学省
酸化ストレス応答とリン脂質酸化変性の意義-単球/マクロファージ接着亢進機序の解明	及川 眞一	血液・内分泌代謝・ 消化器内科	104万	補委 文部科学省
自殺予防対策のための効果的な医学教育法の開発	伊藤 敬雄	精神神経科	104万	補委 文部科学省
食道扁平上皮癌におけるSnONとmiRNAに関する分子生物学的解析	宮下 正夫	消化器・乳腺・ 一般・移植外科	130万	補委 文部科学省

小計 11 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
鼻アレルギー発症機序における上皮細胞の新たな役割-T細胞、樹状細胞と相互作用	Ruby Pawankar	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	78万	(補) 委 文部科学省
脳代謝モニタリング・網羅的脳代謝解析に基づく心肺蘇生後の病態及び治療の研究	恩田 秀賢	高度救命救急センター	91万	(補) 委 文部科学省
ヒト人工骨髄の作成と造血幹細胞・白血病幹細胞のニッチの解析研究	植田 高弘	小児科	143万	(補) 委 文部科学省
悪性黒色腫形成・増殖に関わるシグナルの同定、特に紫外線誘発黒色腫形成機序の解明	船坂 陽子	皮膚科	143万	(補) 委 文部科学省
神経メラニンMRIを用いた難治性うつ病のドパミン、ノルアドレナリン機能評価研究	館野 周	精神神経科	78万	(補) 委 文部科学省
SPECT合成3D-CT乳腺リンパ管造影によるセンチネルリンパ節生検の検証	山下 浩二	内分泌・心臓血管・呼吸器外科	195万	(補) 委 文部科学省
膵癌に対するMDA/IL24を用いた新規遺伝子治療の開発	相本 隆幸	消化器・乳腺・一般・移植外科	117万	(補) 委 文部科学省
FGFR2Ⅲcアイソフォームの制御による膵臓癌の治療戦略	石渡 俊行	病理部	143万	(補) 委 文部科学省
遺伝子変異型により分類化した血管型エーラス・ダンロス症候群の治療手法の開発	渡邊 淳	遺伝診療科	130万	(補) 委 文部科学省
膀胱癌に対するBCG注入療法作用機序の解明	高橋 秀実	東洋医学科	104万	(補) 委 文部科学省
胎児血管特性を応用したアデノシン誘導型DESの開発	澤 倫太郎	女性診療科・産科	156万	(補) 委 文部科学省
眼科手術用灌流液への水素ガス応用の研究	高橋 浩	眼科	130万	(補) 委 文部科学省

小計 12 件

研究課題名				補助元又は委託元
顎骨における水平的骨増生を目指した組織工学的手法の検討	百束 比古	形成外科・美容外科	130万	補委 文部科学省
ショック後腸管リンパ液生理活性および臓器障害に対する腸管由来アラキドン酸の関与	増野 智彦	高度救命救急センター	130万	補委 文部科学省
サブスタンスP受容体を標的とした新規アルコール依存症治療薬の探索と脳機能画像評価	大久保 善朗	精神神経科	104万	補委 文部科学省
心房細動治療における除神経術：心内膜下自律神経ネットワークの解明	坂本 俊一郎	内分泌・心臓血管・呼吸器外科	65万	補委 文部科学省
新しい外リンパ瘻診断マーカーCTPの時空間的発現の検討	新藤 晋	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	78万	補委 文部科学省
ビスフォスフォネート誘発顎骨壊死に対する幹細胞治療の開発	江浦 重義	形成外科・美容外科	104万	補委 文部科学省
肺静脈隔離術後早期に出現する心房細動に対する抗不整脈薬の有用性の検討	林 明聡	一般・循環器・肝臓内科、再生医療科	26万	補委 文部科学省
ヘモグロビクラススイッチの解明とヘモグロビン異常症の新しい治療戦略の基礎的研究	早川 潤	小児科	117万	補委 文部科学省
静水圧を負荷した脂肪組織由来幹細胞による生体内軟骨再生	小川 令	形成外科・美容外科	156万	補委 文部科学省
ラジオ波温熱刺激を用いた変形性関節症の疼痛抑制効果に関する研究	高橋 謙治	リウマチ科	182万	補委 文部科学省
難治性がん性疼痛患者におけるくも膜下モルヒネ鎮痛法の費用対効果	中西 一浩	緩和ケア科	143万	補委 文部科学省
慢性胃炎進展とシクロオキシゲナーゼ2遺伝子単塩基変異の役割	坂本 長逸	血液・内分泌代謝・消化器内科	221万	補委 文部科学省

小計 12 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
線維化病態における骨髄前駆線維細胞の役割と新規治療薬の効果判定に関する研究	吾妻 安良太	呼吸器内科	221万	補委 文部科学省
PETを用いたアデノシン受容体とパーキンソン病の不随意運動の関係についての研究	三品 雅洋	神経・腎臓内科	299万	補委 文部科学省
川崎病発症機構の解明	深澤 隆治	小児科	312万	補委 文部科学省
血管炎の急性期における血管平滑筋細胞の形質転換に伴う細胞機能・応答機構の解明	小川 俊一	小児科	195万	補委 文部科学省
デュアルエネルギーサブトラクション法によるマンモグラフィに関する研究	村上 隆介	放射線科	208万	補委 文部科学省
外科的侵襲時の脂肪細胞の役割と塩酸ピオグリタゾン投与の有効性	松谷 毅	消化器・乳腺・一般・移植外科	182万	補委 文部科学省
In vivo イメージングシステムを用いた膵癌治療実験	内田 英二	消化器・乳腺・一般・移植外科	156万	補委 文部科学省
バセドウ病患者における個別化医療実現のための基礎的研究	五十嵐 健人	内分泌・心臓血管・呼吸器外科	247万	補委 文部科学省
ダブル・ポテンシャル・マッピング法：伝導ブロックの新しい検証法の開発	新田 隆	内分泌・心臓血管・呼吸器外科	286万	補委 文部科学省
慢性期統合失調症患者に発症する嚥下障害の実態調査と病態解明のための研究	三枝 英人	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	195万	補委 文部科学省
眼内微小環境の恒常性維持の分子機構の解析と眼組織移植への応用	堀 純子	眼科	234万	補委 文部科学省
幹細胞とコラーゲン架橋を導入した無細胞真皮マトリックスによる結合組織の再生	高見 佳宏	形成外科・美容外科	221万	補委 文部科学省

小計 12 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
出血性ショック後臓器障害発生における軟部組織損傷の役割に関する研究	大泉 旭	高度救命救急センター	208万	補委 文部科学省
下垂体腺腫におけるmiRNAの機能解析	寺本 明	脳神経外科	273万	補委 文部科学省
ケロイド由来線維芽細胞のカルシウムイオンチャンネル解析	石井 暢明	形成外科・美容外科	117万	補委 文部科学省
Microwave照射による新しいびまん性脳損傷モデルの開発	布施 明	高度救命救急センター	286万	補委 文部科学省
重症虚血下肢に対する低侵襲型血管新生療法の確立	太良 修平	一般・循環器・肝臓内科、再生医療科	130万	補委 文部科学省
間質性肺疾患の末梢血中線維細胞に関する研究	根井 貴仁	総合診療科	247万	補委 文部科学省
造血幹細胞移植後の血栓性微小血管症の発症機序の解明	三井 亜希子	神経・腎臓内科	156万	補委 文部科学省
腎疾患における抗炎症性マクロファージの誘導と治療応用	藤田 恵美子	神経・腎臓内科	169万	補委 文部科学省
咽頭蠕動波は咽頭期嚥下の絶対的な基準となり得るか？	山口 智	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	117万	補委 文部科学省
siRNA技術を用いた遺伝子治療研究	五十嵐 勉	眼科	143万	補委 文部科学省
精神疾患の病態診断と治療評価のためのイメージングバイオマーカーの開発と臨床応用	大久保 善朗	精神神経科	2,620万	補委 厚生労働省
原因不明消化管出血のリスク要因探索と治療指針作成のための疫学研究	坂本 長逸	血液・内分泌代謝・消化器内科	650万	補委 厚生労働省

小計 12 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
過剰運動 (hypermobility) 症候群類縁疾患における病態解明	渡邊 淳	遺伝診療科	1,300万	(補) 厚生労働省 委
円滑な脳死下臓器提供に資するための科学的分析に関する研究	横田 裕行	高度救命救急センター	364万	(補) 厚生労働省 委
新規に同定された子宮内膜症関連遺伝子の発現様式の解析	明楽 重夫	女性診療科・産科	600万	(補) 文部科学省 委
先端医科学研究に関する倫理的・法的・社会的課題についての調査研究	渡邊 淳	遺伝診療科	200万	(補) 文部科学省 委
健常者・気分障害を中心とする統合脳画像データベースの構築	大久保 善朗	精神神経科	325万	(補) 文部科学省 委
遺伝子型検査を用いた薬物療法の個別適正化	渡邊 淳	遺伝診療科	330万	(補) 文部科学省 委
Indocyanine green video angiographyを用いた脳血流定量解析の基礎的研究	村井 保夫	脳神経外科	50万	(補) 日本医科大学 同窓会 委
自己免疫性眼疾患モデルの開発と病態解明および臨床展開	堀 純子	眼科	522.5万	(補) 私立大学教育 研究高度化推 進特別補助 委
NTの網膜神経組織障害に対する神経保護効果	小原澤 英彰	眼科	150万	(補) 株式会社ラフ イーネインタ ーナショナル 委
AAVベクターおよびRNAi技術を用いたVEGF抑制による眼内新生血管抑制の試み	高橋 浩	眼科	1,000万	(補) 私立大学戦略 的研究基盤形 成支援事業 委
代謝型グルタミン酸受容体1型 (mGluR1) に注目した悪性黒色腫形成および増殖に関わるシグナル伝達の同定	船坂 陽子	皮膚科	50万	(補) 加齢皮膚医学 研究会 委

小計 11 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ドーパミントランスポーターイメーシングによる電気けいれん療法の作用機序に関する研究	大久保 善朗	精神神経科	100万	③補委 財団法人先進医薬研究振興財団
多数傷病者事業への医療対応に関する有識者会議の開催	横田 裕行	高度救命救急センター	100万	③補委 日本財団
救急医療診療録の電子化における音声認識自動入力システム及び携帯情報端末導入による業務の効率化に関する研究	増野 智彦	高度救命救急センター	200万	③補委 公益財団法人福田記念医療技術復興財団
ドーピング検査手法の実効性の確保に関する整備事業	大久保 善朗	精神神経科	2,700万	③補委 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構

小計 4 件

合計 74 件

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Orthop Sci	The effects of radiofrequency hyperthermia on pain and function in patients with knee osteoarthritis : a preliminary report	Takahashi Kenji	リウマチ科
Mod Rheumatol	Elevation of serum KL-6 levels in 3 patients with rheumatoid arthritis treated with adalimumab	Koiwa Masahito	リウマチ科
日本医大誌	関節軟骨細胞の老化とストレス応答を利用した変形性関節治療法	高橋 謙治	リウマチ科
リウマチ科	【疼痛性疾患に対する治療の新展開】変形性関節症に対してグルコサミン・コンドロイチンは有効か？	中村 洋	リウマチ科
Jpn J Ophthalmol	Cortical blindness caused by hypoxemia following an asthma attack	Kunisige T	眼科
Mol Cell Neurosci	Reactive gliosis of astrocytes and Muller glial cells in retina of POMGnT1-deficient mice	Takahashi H	眼科
臨床眼科	強皮症に随伴した両眼性汎ぶどう膜炎の1例	佐藤 景子	眼科
あたらしい眼科	眼内レンズセミナー：半円式 CCC マーカー	鈴木 久晴	眼科
あたらしい眼科	「結膜炎」特集目が赤い	堀 純子	眼科
臨床眼科増刊号	「強膜炎の診断と治療」、眼科診療5年前の常識は現在の非常識	堀 純子	眼科
IOL&RS	臨床セミナー：PEA 装置を理解する（前編）	鈴木 久晴	眼科
皮膚科の臨床	大量ガンマグロブリン	岡崎 静	皮膚科

小計 12 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
皮膚科の臨床	両眼に黄斑変性症を伴った弾性線維性仮性黄色腫の1例	岡崎 静	皮膚科
日本医事新報	成人の伝染性紅斑 (Q&A)	岡崎 静	皮膚科
皮膚科の臨床	角質増殖型水癬に対する経口抗真菌剤テルビナフィン内服後の塩酸ブテナフィンクリーム外用の有効性	菊地 伊豆実	皮膚科
皮膚科の臨床	特発性後天性全身性無汗症の1例 脳下垂体部腫瘍との関連性について	亦野 蓉子	皮膚科
Journal of dermatology	A Case of Folliculosebaceous Cystic Hamartoma associated with Melanocytic Nevus	Sachiko Noro	皮膚科
Journal of dermatology	Malignant melanoma of the nasal vestibule	Sachiko Noro	皮膚科
Skin cancer	悪性黒色腫の肝転移に対するシスプラチン冠動脈内投与及び冠動脈塞栓療法を施行した1例	野呂 佐智子	皮膚科
J Dermatol	Immunohistochemical Findings of Sebaceous Carcinoma : Retrieval of Cytokeratin Expression by a panel of Anti-cytokeratin Monoclonal Antibodies	Ansai S	皮膚科
Aesthetic Dermatol	近赤外線的光老化に対する作用	船坂 陽子	皮膚科
太陽紫外線防御研究委員会学術報告	UVAおよびUVBによる発癌	船坂 陽子	皮膚科
皮膚病診療	しみの治療法	船坂 陽子	皮膚科
日皮会誌	ケミカルピーリングによる rejuvenation	船坂 陽子	皮膚科

小計 12 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日皮会誌	HSPの診断、治療に関するワンポイント・レッスン	川名 誠司	皮膚科
Ann Thorac Surg	Initial experience with the radial incision approach for atrial fibrillation	Nitta T	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg	Application of Off-pump Coronary Artery Bypass Grafting for Patients with Acute Coronary Syndrome Requiring Emergency Surgery	Ochi M	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
J Nippon Med Sch	Evolution of staged approach for Fontan operation	Yamauchi H	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg	Application of off-pump coronary artery bypass grafting for patients with acute coronary syndrome requiring emergency surgery.	Ochi M	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
J Thorac Cardiovasc Surg	Incisional atrial reentrant tachycardia: experimental study on the conduction property through the isthmus	Ishii Y	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
J Thorac Cardiovasc Surg	Concurrent multiple left atrial focal activations with fibrillatory conduction and right atrial focal or reentrant activation as the mechanism in atrial fibrillation	Nitta T	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
J Thorac Cardiovasc Surg	Map-guided surgery for atrial fibrillation.	Nitta T	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
J Cardiovasc Electrophysiol	Interatrial electrical connections: the precise location and preferential conduction	Sakamoto s	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
Eur J Cardiothorac Surg	Intraoperative mapping of the right atrial free wall during sinus rhythm: variety of activation patterns and incidence of postoperative atrial fibrillation.	Sakamoto s	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
J Thorac Cardiovasc Surg	Isolating the entire posterior left atrium improves surgical outcomes after the Cox maze procedure.	Voeller RK	内分泌・心臓血管・呼吸器外科

小計 11 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Thorac Cardiovasc Surg	Pulmonary vein isolation and the Cox maze procedure only partially denervate the atrium.	Lall SC	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg	Surgical results of completion pneumonectomy	Shuji Haraguchi	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg	Unification of T2a and T2b Tumors to T2 Tumors in Non-Small Cell Lung Cancer Staging	Shuji Haraguchi	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
Int J Med Sci	Clinicopathological characteristics and prognosis of non-small cell lung cancer patients with a family history of lung cancer	Shuji Haraguchi	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg	Surgical treatment of metachronous non-small cell lung cancer	Shuji Haraguchi	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
Heart Rhythm	The effects of inflammation on heart rate and rhythm in a canine model of cardiac surgery.	Schuessler RB	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
THYROID CANCER AND NODULES	Prognostic Factors and Treatment Outcomes of 100 Cases of Anaplastic Thyroid Carcinoma	Junko Akaishi	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
JOURNAL OF NIPPON MEDICAL SCHOOL	Cosmetic Benefits of the Central Approach by Video-assisted Neck Surgery (VANS) in Graves' disease	Ritsuko Okamura	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
東京都医師会雑誌	内分泌性高血圧の診断と外科的治療	五十嵐 健人	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
日本医科大学医学会雑誌	内分泌外科領域における低侵襲手術の現状	五十嵐 健人	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
World Journal of Surgery	Prognostic Impact of Extrathyroid Extension and Clinical Lymph Node Metastasis in Papillary Thyroid Carcinoma Depend on Carcinoma Size	Mitsuhiro Fukushima	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
Modern Physician	甲状腺良性腫瘍	清水 一雄	内分泌・心臓血管・呼吸器外科

小計 12 件

雜誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ann Thorac Surg	Invited Commentary on Left Atrial Expansion Index for Predicting Atrial Fibrillation and In-Hospital Mortality After Coronary Artery Bypass Graft Surgery. Wang WH, et. al. Ann Thorac Surg 2012;93:796-803	Nitta T	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
The annals of thoracic surgery	Enhanced Vascularization by Controlled Release of Platelet-Rich Plasma Impregnated in Biodegradable Gelatin Hydrogel	Kurita J	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
Brain research	Mild hypothermia enhanced the protective effect of protein therapy with transductive anti-death FNK protein using a rat focal transient cerebral ischemia model	Sakurazawa M	神経・腎臓内科
Neurological Research	FK506 ameliorates oxidative damage and protects rat brain following transient focal cerebral ischemia	Nito C	神経・腎臓内科
Clin Chim Acta 413 (1-2)	Effects of olmesartan and imidapril on the plasma adiponectin, P-selectin, and MDA-LDL levels of diabetic nephropathy patients	Utumi K	神経・腎臓内科
Clinical nephrology	Carotid intima-media thickness and cerebral white matter lesions are more advanced in acute ischemic stroke patients with renal dysfunction	Ueda K	神経・腎臓内科
Pathology International	Renal thrombotic microangiopathy associated with chronic graft-versus-host disease after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	Mii A	神経・腎臓内科
Life Sciences	Combination therapy with bone marrow stromal cells and FK506 enhanced amelioration of ischemic brain damage in rats	Suda S	神経・腎臓内科
J Stroke Cerebrovasc	Effects of eicosapentaenoic acid on asymmetric dimethylarginine in patients in the chronic phase of cerebral infarction : a preliminary study	Hagiwara H	神経・腎臓内科

小計 9 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
創傷	動脈静脈吻合 (arterio-venous anastomosis) のみにより再接着し得た指尖部完全切断の1例 -Multidetector-row CT (MDCT) による血行動態の評価-	飯村 剛史	形成外科・美容外科
整形外科	巨指症を伴わない母指尺側指神経の線維脂肪性肥大の1例	南野 光彦	整形外科
European Journal of Pharmacology	Intra-articular administration of tachykinin NK ₁ receptor antagonists reduces hyperalgesia and cartilage destruction in the inflammatory joint in rats with adjuvant-induced arthritis	Uematsu T	整形外科
Journal of Orthopaedics	Ligamentum flavum hematoma in the Lumbar Spine: a report of three cases and review of the literature	Mochizuki Y	整形外科
Hand Surg	Myositis ossificans of the supinator muscle causing posterior interosseous nerve palsy: a case report	Kitagawa Y	整形外科
日本足外会誌	変形性足関節症の発生要因に対する一考察	青木 孝文	整形外科
Journal of Nippon Medical School	Electrophysiological and histological investigation on the gradual elongation of rabbit sciatic nerve	Kodera N	整形外科
関節外科	TKAにおけるPF関節のバイオメカニクス	高井 信朗	整形外科
肩関節	変形性肩関節症に対する人工肩関節置換術の治療成績	橋口 宏	整形外科
JOSKAS	一次修復不能腱板広範囲断裂に対する鏡視下大腿筋膜移植術の治療成績	橋口 宏	整形外科
肩関節	Cuff tear arthropathy を伴った腱板広範囲断裂に対する人工骨頭置換術の治療成績	岩下 哲	整形外科

誌名	題名	発表者氏名	所属部門
精神科治療学	分子イメージングによる抗精神病薬の評価	大久保 善朗	精神神経科
Frontiers in Parkinson Disease	画像診断のより上手な使い方 幻覚妄想の分子イメージング 統合失調症とパーキンソン病の精神病症状	大久保 善朗	精神神経科
精神科	PET 所見を中心にしたパリペリドン徐放錠の薬理的考察	大久保 善朗	精神神経科
日本臨牀	[18F] AV-45 によるアミロイドイメージング	舘野 周	精神神経科
Psychiatry and Clinical Neurosciences	Successful switching from sine-wave to pulse-wave with oral theophylline the night before electroconvulsive therapy for depression	Satoshi U	精神神経科
Neurologia Medico-chirurgica	Lower Extracellular Glucose Level Prolonged in Elderly Patients With Severe Traumatic Brain Injury:A Microdialysis Study	Shoji Y	高度救命救急センター
Respirology	Plasma neutrophil elastase correlates with pulmonary vascular permeability: A prospective observational study in patients with pneumonia.	Takashi T	高度救命救急センター
Neurosurgery	Transcranial Doppler Ultrasonography for Diagnosis of Cerebral Vasospasm After Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage: Mean Blood Flow Velocity Ratio of the Ipsilateral and Contralateral Middle Cerebral Arteries	Ryuta N	高度救命救急センター
THERAPEUTIC HYPOTHERMIA AND TEMPERATURE MANAGEMENT	The Use of Hypothermia Therapy in Traumatic Ischemic/Reperfusional Brain Injury:Review of the Literatures	Shoji Y	高度救命救急センター
Journal of Trauma	Time course of recovery from cerebral vulnerability after severe traumatic brain injury: a microdialysis study.	Shoji Y	高度救命救急センター

小計 10 件

誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Anaesthesia	The precision of PiCCO measurements in hypothermic post-cardiac arrest patients	Takashi T	高度救命救急センター
日本医科大学医学会雑誌	【東日本大震災 日本医科大学の対応】東日本大震災に対する日本医科大学救急医学教室の取り組み われわれはどう行動したのか	増野 智彦	高度救命救急センター
日本臨床麻酔学会誌	経肺熱希釈測定法で測定される肺血管外水分量と肺血管透過性係数	田上 隆	高度救命救急センター
日本外科感染症学会雑誌	頭部外傷と感染	宮内 雅人	高度救命救急センター
バイオメディカル	熱中症患者の重症度評価における重症度スコアおよび凝固系マーカーの有用性	白石 振一郎	高度救命救急センター
Surgical Trauma & Immunological Responses	集中治療の新たな治療パラメータ：肺血管外水分量と肺血管透過性係数	田上 隆	高度救命救急センター
日本透析医会雑誌	東日本大震災と「会津地域透析連携協力ネットワーク」：官・民・病院・職種の枠を超えたネットワークの構築	田上 隆	高度救命救急センター
J Med Ultrasonics	Aortic valve calcification and increased stiffness of the proximal thoracic ascending aorta: association with left ventricular diastolic dysfunction and early chronic kidney disease	Honma H	一般・循環器・肝臓内科・再生医療科
Journal of Nippon Medical School	Multi-row detector computed tomography coronary angiogram image of an anomalous left coronary artery from the pulmonary artery.	Ryuji F	小児科
乳幼児診療 A to Z. II. 乳幼児における症状・症候-診察所見を中心にした診断へのアプローチ 33	低身長	大木 由加志	小児科
日本小児科学会雑誌	小児・思春期糖尿病におけるシックデ이의管理（国際小児思春期糖尿病学会診療ガイドライン 2006～2008）	大木 由加志	小児科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Nihon Med Sch	An infantile case of SLE-like symptoms in complete C1q deficiency	Jun H	小児科
J Nihon MedSch	An infantile case of early manifestation of SLE-like symptoms in complete C1q deficiency	Jun H	小児科
Gene Ther	Optimal conditions for lentiviral transduction of engrafting human CD34 (+) cells	Jun H	小児科
小児科	Beals 症候群の 1 例	早川 潤	小児科
小児内科	どのようなときに乳児の貧血を疑って検査すべきですか	植田 高弘	小児科
腎臓症候群（第 2 版） 一その他の腎臓疾患 を含めて一	先天性中胚葉性腎腫	植田 高弘	小児科
小児科	注射の仕方	植田 高弘	小児科
J Nippon Med Sch	A 6-year-old Girl with Hemoglobin H Disease	Takahiro U	小児科
日医大医学会誌	待機術直前に無症候性大動脈解離をきたしたと思われる Marfan 症候群の 1 例	阿部 正徳	小児科
日本臨版 冠動脈疾患-診断と治療の進歩-	川崎病後遺症の診断と治療ガイドラインのポイント	小川 俊一	小児科
小児科診療	II. 検査にせまる(検査結果から本態にせまる)冠循環	小川 俊一	小児科
冠疾患誌	冠動脈障害を有する川崎病既往者の冠循環動態および侵襲的治療前後の冠循環動態を考察する	小川 俊一	小児科
日本小児循環器学会雑誌	日本小児循環器第一期学会専門医試験の検証と展望	中澤 誠	小児科

小計 13 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Nippon Med Sch	Tumor Necrosis Factor- α -induced Mononuclear Cell Death May Contribute to Polymorphonuclear Cell Predominance in the Cerebrospinal Fluid of Patients with Bacterial Meningitis	Yasuhiko K	小児科
小児科	採尿・浣腸	五十嵐 徹	小児科
ライソゾーム病	マルチプルスルファターゼ欠損症	高木 篤史	小児科
小児内科	クローズアップ 小児リウマチ・膠原病(小児リウマチ性疾患の診断へのアプローチ) 長引く発熱の鑑別診断	檜崎 秀彦	小児科
Health Qual Life Outcomes.	Validation of the Japanese version of the Pediatric Quality of Life Inventory (PedsQL) Cancer Module	前田 美穂	小児科
がんサポートガイド 治療増刊号	治療後、将来妊娠への影響はありますか？	前田 美穂	小児科
小児内科	ライフパンから見た小児診療. 腫瘍疾患-晩期合併症血液腫瘍性疾患	前田 美穂	小児科
小児保健研究	鉄欠乏と異食症の関係-第1報 思春期の鉄欠乏性貧血における異食症の実態-	前田 美穂	小児科
Journal of Nippon Medical School	Tumor Necrosis Factor- α -induced Mononuclear Cell Death May Contribute to Polymorphonuclear Cell Predominance in the Cerebrospinal Fluid of Patients with Bacterial Meningitis	Kentarou K	小児科
Pteridines	Neopterin May Enhance TNF- α -mediated Mononuclear Cell Death in the Cerebrospinal Fluid of Patients with Bacterial Meningitis	Kentarou K	小児科
Pediatr Int	Serum KL-6 and surfactant protein D in children with 2009 pandemic H1N1 influenza infection	Satoko N	小児科
J Nihon Med Sch	Multi-row detector computed tomography coronary angiogram image of an anomalous left coronary artery from the pulmonary artery	Ryuji F	小児科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
小児科	採尿・浣腸	五十嵐 徹	小児科
Europace	The role of stress test for predicting genetic mutations and future cardiac events in asymptomatic relatives of catecholaminergic polymorphic ventricular tachycardia probands	Miyuki H	小児科
創傷	動脈静脈吻合 (arterio-venous anastomosis) のみにより再接着し得た指尖部完全切断の1例 -Multidetector-row CT (MDCT) による血行動態の評価-	飯村 剛史	形成外科・美容外科
J Nippon Med Sch	Clinical Applications of Basic Research that Shows Reducing Skin Tension Could Prevent and Treat Abnormal Scarring: The Importance of Fascial/Subcutaneous Tensile Reduction Sutures and Flap Surgery for Keloid and Hypertrophic Scar Reconstruction	Ogawa R	形成外科・美容外科
J Radiat Res (Tokyo)	Post-keloidectomy Irradiation Using High-dose-rate Superficial Brachytherapy	Hyakusoku H	形成外科・美容外科
J Hand Surg Am	Clinical Applications of Perforator-Based Propeller Flaps in Upper Limb Soft Tissue Reconstruction	Ono S	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	Distally based superficial sural artery flap excluding the sural nerve	Hyakusoku H	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	Reply: Finding a favorable treatment of polyacrylamide hydrogel injection complication.	Ono S	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	A 5-year assessment of safety and aesthetic results after facial soft-tissue augmentation with polyacrylamide hydrogel (aquamid): a prospective multicenter study of 251 patients	Hyakusoku H	形成外科・美容外科
Eplasty	Upper Lip Basal Cell Carcinoma Reconstruction Based on Anatomical Characteristics Using Skin-Mucosa Double Opposing V-Y Advancement Flap	Ogawa R	形成外科・美容外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eplasty	A Late Complication of Breast Augmentation With 2 Different Types of Injectable Materials	Nomoto S	形成外科・美容外科
Aesthetic Plastic Surgery	Small-wave Incision Method for Linear Hypertrophic Scar Reconstruction - A Parallel- Group Randomized Controlled Study-	百束 比古	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療研究ジャーナル	ケロイドにおける IL-6 シグナルの機能解析	百束 比古	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療研究ジャーナル	ケロイド・肥厚性瘢痕に対する治療方針とわれわれの新しい取り組み	小川 令	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療研究ジャーナル	ケロイド・肥厚性瘢痕の分類	赤石 諭史	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療研究ジャーナル	ケロイドにおける Wnt シグナルの役割	百束 比古	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療研究ジャーナル	有限要素法によるケロイド増殖パターンと張力との関係の解析	渡邊 真泉	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療研究ジャーナル	耳ケロイドの治療戦略	小川 令	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療研究ジャーナル	熱傷瘢痕拘縮再建における薄い皮弁の有用性	小川 令	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療研究ジャーナル	熱傷後瘢痕患者におけるリハビリメイク®による外観および精神面の変化	小川 令	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療研究ジャーナル	重症ケロイドに対する皮弁手術の有用性ー特にプロペラ皮弁の有用性についてー	土肥 輝之	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療研究ジャーナル	ケロイド・肥厚性瘢痕に対するロングパルス Nd:YAG レーザーの有用性	赤石 諭史	形成外科・美容外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル	癬痕拘縮の評価・分類と治療指針	小川 令	形成外科・美容外科
PEPARS	下肢広範囲組織欠損の薄い皮弁による整容的再建	百束 比古	形成外科・美容外科
癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル	ケロイド好発部位の視覚的解析	大森 康高	形成外科・美容外科
PEPARS	下肢の癬痕・癬痕拘縮に対する修復	小川 令	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	Application of Multidetector-Row Computed Tomography in Propeller Flap Planning	Ono S	形成外科・美容外科
Ann Chir Plast Esthet	Propeller flaps: Classification and clinical applications	Ogawa R	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	The "Tokyo" Consensus on Propeller Flaps	Ogawa R	形成外科・美容外科
Eplasty	Plasty Method for Secondary Scar Revision After Flap Surgery	Ono S	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	Application of the dorsal metacarpal artery perforator flap for resurfacing soft-tissue defects proximal to the fingertip	Ono S	形成外科・美容外科
HAND	A Systematic Review of Outcomes of Toe-to-Thumb Transfers for Isolated Traumatic Thumb Amputation	Ono S	形成外科・美容外科
HAND	Reconstruction of the Rheumatoid	Ono S	形成外科・美容外科
創傷	三次元ワイヤーフレーム外固定法による手指植皮術の経験	小野 真平	形成外科・美容外科
日本美容外科学会会報	シリコンバッグプロステーシスと未分化大細胞型リンパ腫(ALCL)の関連性における文献的考察-第1報-	小野 真平	形成外科・美容外科
Aesthetic Plast Surg	Acellular dermal matrix seeded with adipose-derived stem cells as a subcutaneous implant	Hyakusoku H	形成外科・美容外科

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Ann Plast Surg	Chest wall reconstruction of severe mediastinitis with intercostal artery-based pedicled vertical rectus abdominis muscle flap with oblique-designed skin pedicle	Aoki M	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	Nuclear Magnetic Resonance Spectroscopy as a Useful Tool for Ingredient Analysis of Synthetic Materials	Okuda T	形成外科・美容外科
Eplasty	Usefulness of the Portable DICOM Viewer System for Facial Bone Fractures	Ono S	形成外科・美容外科
PEPARS	皮下茎弁/island flap(いわゆる propeller flap を含む)	百東 比古	形成外科・美容外科
小児科	治療後の諸問題、4. 小児のやけど(熱傷)	百東 比古	形成外科・美容外科
Journal of Wound Technology	The Pathomechanism of The Ligamentum Flavum Hypertrophy is Similar to That of The Hypertrophic Scar Formation during Wound Healing	Ogawa R	形成外科・美容外科
Journal of Wound Technology	Current keloid and hypertrophic scar treatment algorithms and our recent trials	Ogawa R	形成外科・美容外科
Journal of Wound Technology	Forces and matrices in wound healing	Ogawa R	形成外科・美容外科
Journal of Wound Technology	Non-contact mode long pulse nd:YAG laser therapy for keloids and hypertrophic scars	Akaishi S	形成外科・美容外科
Journal of Wound Technology	Strategy for treating ear keloids	Hyakusoku H	形成外科・美容外科
Journal of Wound Technology	Cosmetic and psychological effectiveness of rehabilitation Make-up® for post-burn scar patients	Hyakusoku H	形成外科・美容外科
Journal of Wound Technology	Influence of negative atmospheric pressure on cultured human dermal fibroblasts	Takami Y	形成外科・美容外科
Journal of Wound Technology	Treatment of chronic ulcers by autologous blood injections	Ogawa R	形成外科・美容外科

小計 13 件

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Journal of Wound Technology	Wound closure using human hair	Ogawa R	形成外科・美容外科
Journal of Wound Technology	Effectiveness of super-thin flaps in burn reconstructive surgery	Ogawa R	形成外科・美容外科
Journal of Wound Technology	Expansion-prefabricated crossing area supply super-thins flap: an experimental study and clinical application	Hyakusoku H	形成外科・美容外科
Journal of Wound Technology	Measurement of keloids color	Dohi T	形成外科・美容外科
Journal of Wound Technology	Visual analysis of the regions of the body where keloids tend to occur	Omorì Y	形成外科・美容外科
Journal of Wound Technology	Visual analysis of the stretching tension associated with keloids treatments	Watanabe M	形成外科・美容外科
Journal of Wound Technology	Diagnosis, assessment and classification of scar contractures	Ogawa R	形成外科・美容外科
Journal of Wound Technology	Small-wave incision method for hypertrophic scar reconstruction	Ono S	形成外科・美容外科
Wound Repair and Regeneration	The relationship between skin stretching/contraction and pathologic scarring: The important role of mechanical forces in keloid generation	Ogawa R	形成外科・美容外科
熱傷	II度熱傷創に対する植皮術後の感染制御に銀含有ハイドロファイバー創傷被覆材の併用が奏功した1例	飯村 剛史	形成外科・美容外科
日本褥瘡学会誌	ポケットを有する仙骨部褥瘡に対するポケット被蓋回転皮弁	石井 暢明	形成外科・美容外科
Plastic and Reconstructive Surgery	Effects of Adipose-Derived Stem Cells on Improving the Viability of Diced Cartilage Grafts	Hyakusoku H	形成外科・美容外科
Recent Patents on Regenerative Medicine 1	Recent Patents on Stem Cell-Mediated Cartilage Regeneration and Repair	Ogawa R	形成外科・美容外科

小計 13 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Annals of Surgery	Angiogenesis in Wounds Treated by Microdeformational Wound Therapy	Ogawa R	形成外科・美容外科
Ann Plast Surg	Microdeformation of Three-Dimensional Cultured Fibroblasts Induces Gene Expression and Morphological Changes	Ogawa R	形成外科・美容外科
American Journal of Physiology Cell Physiology	Using changes in hydrostatic and osmotic pressure to manipulate metabolic function in chondrocytes	Ogawa R	形成外科・美容外科
J Plast Reconstr Aesthet Surg	The effect of surgical denervation on prevention of excessive dermal scarring: a study on rabbit ear hypertrophic scar model	Ogawa R	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	Shock wave therapy in wound healing	Ogawa R	形成外科・美容外科
Wound Repair and Regeneration	Mechanobiology of scarring	Ogawa R	形成外科・美容外科
J Surg Res	A review of the role of mechanical forces in cutaneous wound healing	Ogawa R	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	Reply: The Reconstructive Ladder in Light of Evidence-Based Medicine	Ogawa R	形成外科・美容外科
医学のあゆみ 創傷治癒の最前線	ケロイドと肥厚性瘢痕の最新治療	小川 令	形成外科・美容外科
PEPARS	植皮術における血腫予防と固定法の工夫	小川 令	形成外科・美容外科
日美外報	多血小板治療における早期皮下硬結の実験的検討	陳 貴史	形成外科・美容外科
日形会誌	形成外科学とメカノバイオロジー(機械生物学)-物理的刺激が創傷治癒や組織再生に与える役割-	小川 令	形成外科・美容外科
胸部外科	胸部外科領域における創傷治癒の基本	小川 令	形成外科・美容外科

小計 13 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
胸部外科	手術部位感染 (SSI) や肥厚性瘢痕 (HSs) の原因と予防	小川 令	形成外科・美容外科
胸部外科	理想的な皮膚, 軟部組織, 胸骨の縫合法	小川 令	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	Effects of Adipose-Derived Stem Cells on Improving the Viability of Diced Cartilage Grafts	Hyakusoku H	形成外科・美容外科
Eplasty	Combining the external fixation and microsurgical osteoseptocutaneous flap transplantation methods for limb salvage	Ono S	形成外科・美容外科
Eplasty	Nd:YAG Laser Treatment of Keloids and Hypertrophic Scars	Akaishi S	形成外科・美容外科
Biomedical Research	Proteomic analysis of rat brains in a model of neuropathic pain following exposure to electroconvulsive stimulation	Kamagata C	麻酔科
Journal of Anesthesia	Safety and efficacy of oral rehydration therapy until 2h before surgery: a multicenter randomized controlled trial	Itou K	麻酔科
Neuroscience Research	A subset of μ -opioid receptor-expressing cells in the rostral ventromedial medulla contribute to thermal hyperalgesia in experimental neuropathic pain	Mase H	麻酔科
British Journal of Pharmacology	Inhibition of fatty acid amide hydrolase unmasks CB1 receptor and TRPV1 channel-mediated modulation of glutamatergic synaptic transmission in midbrain periaqueductal grey	Kawahara	麻酔科
臨床婦人科産科	【不妊原因診断とARTの前の対処法】子宮奇形	竹下 俊行	女性診療科・産科
J Nihon Med Sch.	Fetal heart rate classification proposed by the perinatology committee of the Japan society of obstetrics and gynecology: reproducibility and clinical usefulness.	Hayashi M	女性診療科・産科

小計 11 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Obstet Gynaecol Res	Career satisfaction level, mental distress, and gender differences in working conditions among Japanese obstetricians and gynecologists.	Sawa R	女性診療科・産科
Immunobiology	Disruption of maternal immune balance maintained by innate DC subsets results in spontaneous pregnancy loss in mice	Negisi Y	女性診療科・産科
J Nihon Med Sch.	Novel hybrid mesh surgery combines sacrocolpopexy with transvaginal mesh placement for pelvic organ prolapse	Ichikawa M	女性診療科・産科
Sci Signal	Short RNA duplexes elicit RIG-I-mediated apoptosis in a cell type- and length-dependent manner	Takeshita T	女性診療科・産科
J Nihon Med Sch	Conservative management of hyperreactio luteinalis: a case report	Abe T	女性診療科・産科
J Nihon Med Sch	Evaluation of laparoendoscopic single-site gynecologic surgery with a multitrocar access system.	Ichikawa M	女性診療科・産科
J Nihon Med Sch	A case report of complete chorioamniotic membrane separation	Satomi M	女性診療科・産科
J Nihon Med Sch	Determining best potential predictor during high-dose progestin therapy for early staged and well-differentiated endometrial adenocarcinoma using semiquantitative analysis based on image processing and immunohistochemistry.	Kamoi S	女性診療科・産科
J Obstet Gynaecol Res	A case of tumor lysis syndrome following chemotherapy for a uterine epithelioid leiomyosarcoma with focal rhabdomyosarcomatous differentiation	Hiraizumi Y	女性診療科・産科
Nihon Med Sch	Is a red umbilical cord a sign of umbilical venous congestion?: a case report.	Miyake H	女性診療科・産科
産婦人科の実際	低侵襲を目指した中隔子宮手術の検討	阿部 崇	女性診療科・産科
日本医大医学会雑誌	卵巣腫瘍との鑑別に苦慮した虫垂粘液腺腫の1例	浜野 愛理	女性診療科・産科

小計 12 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
産婦人科の実際	産婦人科の薬剤使用プラクティス:病態別処方～産科編～ 合併症妊娠 習慣流産	竹下 俊行	女性診療科・産科
東京産科婦人科学会誌	多系統萎縮症に合併した卵巣腫瘍の1例	山下 恵理子	女性診療科・産科
日本エンドメトリオーシス学会	後腹膜に発生した子宮内膜症性嚢胞の1症例	尾崎 景子	女性診療科・産科
日本産科婦人科学会誌	シンポジウムレビュー「流産の原因と対策」	竹下 俊行	女性診療科・産科
HORMON FRONTIER IN GYNECOLOGY	特集「不育症」 子宮形態異常	竹下 俊行	女性診療科・産科
臨床婦人科産科	不育症の診療指針「夫リンパ球免疫療法」	竹下 俊行	女性診療科・産科
産婦人科の実際	【不育症 最前線】不育症 over view	竹下 俊行	女性診療科・産科
臨床婦人科産科	【不妊診療の ABC-ART の前にできること】【不妊原因診断と ART の前の対処法】 子宮奇形	竹下 俊行	女性診療科・産科
産婦人科の実際	【不育症 最前線】子宮形態異常と不育症	竹下 俊行	女性診療科・産科
日本エンドメトリオーシス学会会誌	深部子宮内膜症に対する腹腔鏡下ダグラス窩開放の工夫	峯 克也	女性診療科・産科
日本エンドメトリオーシス学会会誌	子宮内膜症の薬物治療 当科における卵巣チョコレート嚢胞の術後プロトコール 薬物の投与基準を含めて	大内 望	女性診療科・産科
東京産科婦人科学会会誌	妊娠 17 週で急性壊疽性虫垂炎を発症し流産に至った 1 例	尾崎 景子	女性診療科・産科
HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY	【プロラクチンの生理・病理の新展開】産褥心筋症とプロラクチン	阿部 崇	女性診療科・産科

小計 13 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
産婦人科の実際	【産婦人科領域での妊孕能向上を目指した形成術】腹腔鏡下手術における術後癒着防止	明樂 重夫	女性診療科・産科
日本産科婦人科学会 東京地方部会誌	妊娠中に診断された筋強直性ジストロフィー合併妊娠の1例	渋井 庸子	女性診療科・産科
日本産婦人科・新生児 血液学会誌	血栓性素因のある不育症に対するヘパリンカルシウム自己皮下注射の安全性についての検討	竹下 俊行	女性診療科・産科
日本産科婦人科学会 関東連合地方部会誌	【重篤な妊娠・産褥合併症】抗凝固療法を行っていたにもかかわらず脳梗塞を合併した抗リン脂質抗体陽性妊婦の一例	大内 望	女性診療科・産科
産婦人科の実際	分娩予知のため、陣痛までの子宮頸管腺領域(CGA)のエコーパターン変化の研究	竹下 俊行	女性診療科・産科
産科と婦人科	【胎児死亡と胎盤病理】正常胎盤、卵膜、臍帯の組織所見	竹下 俊行	女性診療科・産科
臨床婦人科産科	【不妊症に治療法】夫リンパ球免疫療法	竹下 俊行	女性診療科・産科
周産期医学	【経膈分娩を成功させるコツ】吸引・鉗子分娩の上手な方法	磯崎 太一	女性診療科・産科
東京産婦会誌	非機能正下垂体腺腫合併妊娠の1例	五十嵐 美和	女性診療科・産科
International Journal of Fertility & Sterility	Risk perception of Pregnancy Promotes Disapproval of Gestational Surrogacy: Analysis of a Nationally Representative Opinion Survey in Japan	Sawa R	女性診療科・産科

小計 10 件

合計 234 件

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	院長 福永 慶隆
管理担当者氏名	各部署長

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		各部署	<ul style="list-style-type: none"> 各年度毎、各月毎に分類 病歴番号による分類等
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	<ul style="list-style-type: none"> 各年度毎、各月毎に分類
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	庶務課	
	高度の医療の研修の実績 閲覧実績	臨床研修センター 庶務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携室	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	庶務課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項の確保各号及び第九の二十三の第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者相談窓口	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	福永 慶隆
閲覧担当者氏名	小林 義紀
閲覧の求めに応じる場所	閲覧室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	4	件	
閲覧者別	医師	延	件	
	歯科医師	延	件	
	国	延	2	件
	地方公共団体	延	2	件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	72.7	%	算定期間	平成23年 4月 1日～平成24年 3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数			18,612人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			7,862人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			7,351人
	D：初診の患者の数			38,641人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
・ 指針の主な内容： 医療安全管理に関する基本的考え方、医療に係る安全管理の組織に関する基本的事項、 医療安全管理のための職員研修に関する基本的事項、 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針、 医療事故発生時の対応に関する基本方針、 当院と患者との間の情報の共有に関する基本方針、 患者からの相談への対応に関する基本方針、 その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： (1) 医療安全管理の指針の見直し、医療安全管理研修の計画、事故防止対策の策定・周知 (2) 安全管理に関する広報活動 (3) その他、院長の諮問を受けた事項	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 4 回
研修の主な内容： 「医療安全について」 平成23年 4月 2日 「薬剤耐性アシネトバクターと感染対策」 平成23年 4月11日 「医療現場における個人情報保護 ～最近の事例を踏まえながら～」 平成23年 4月28日 「東日本大震災、原発事故をふまえた放射線に関する再認識」 平成23年11月18日	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 医療安全集中管理システム(セーフマスター)での管理 (2) 医療安全ウェブサイト(安全オンデマンド)による情報共有 (3) 医療安全管理に関する規定(指針・ガイドライン・マニュアル)の改正・配布 (4) 医療安全管理の手引きの改正・配布 (5) リスクマネージャ会議(月1回)における改善方策周知 (6) 院内リスクアナウンス(安全情報等)の周知確認登録(安全オンデマンド・電子カルテシステム画面を使用したポータルサイト)等	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2名)
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名)
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有

- ・ 所属職員： 専任（ 8 ）名 兼任（ 10 ）名
- ・ 活動の主な内容：

- (1) 医療安全管理委員会の定期開催（月1回）
- (2) リスクマネージャ会議の定期開催（月1回）
- (3) 個人情報保護推進委員会の定期開催（月1回）
- (4) 医療ガス安全管理委員会の定期開催（年1回）
- (5) 放射線施設事故防止委員会の定期開催（年2回）
- (6) 医療安全相互ラウンドの実施
- (7) 日本医療評価機構への参画
- (8) 医療安全管理に関する規定（指針・ガイドライン・マニュアル）の改正 等

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

有

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
・ 指針の主な内容： 1) 院内感染対策に関する基本的考え方 2) 院内感染対策のための委員会その他の当該病院等の組織に関する基本的事項 3) 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 4) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7) その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・ 活動の主な内容： 1) 感染対策の強化、追加、完全に関する方針・対応策の決定。 2) 監視（サーベイランス）データの報告と問題点に関する分析・討議。 3) 感染防止ガイドライン、マニュアル、指針の策定及び改正に関する討議、決定。 4) 院内研修及び教育活動に関する実施計画の立案、討議、決定。 5) 上記1～4に関する周知・徹底、ならびに周知・徹底方法に関する討議、決定。 6) アウトブレイク等院内発生事象に関する報告及び対応方法の討議・決定。 7) 感染制御部、感染制御チームに対する助言、支援。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 5 回 (全職員対象)
・ 研修の主な内容： 1) 新人研修（全職種）研修（講義および演習） 2) 院内感染対策講演会（全職員を対象として） ・ H23/4/2 院内感染対策：Clostridium difficile 関連下痢症対策 ・ H23/4/11 薬剤耐性アシネトバクターと感染対策 ・ H23/10月 感染防止強化月間手指衛生演習 ・ H23/11/15 当院の事象と薬剤耐性菌対策 ・ H24/3/19 武蔵小杉病院感染制御部の活動報告と4病院の連携 3) 部門・職種別研修 ・ 中途採用者、清掃委託業者、看護部感染管理委員、臨床工学技士、放射線技師、救命救急センター及び集中治療室医師。	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 多剤耐性菌院内感染防止対策 ・ 私立医科大学病院感染対策協議会への相談・支援依頼 ・ 積極的監視培養検査の拡充 ・ 薬剤耐性菌感染防止マニュアル、アウトブレイク対応マニュアルの策定・改定 ・ 感染対策の周知徹底に係る電子カルテ、イントラネットの活用 ・ 新規器材の採用、運用手順の変更 2) 感染管理研修 ・ 職種/部門別研修の実施 ・ 全職員を対象とした手指衛生実技演習 3) 組織体制 ・ 感染制御部へ複数名の医師（感染症医を含む）の配属	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容： 1) 「医薬品の安全管理」 平成23年 4月 2) 「内服薬処方せんの記事方法の在り方について」 平成23年 6月 3) 「医薬品の安全情報2011」 平成23年12月	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有) ・ 業務の主な内容： 医薬品の安全使用のための業務チェックリストにて年2回確認を行っている。 (別紙)	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 添付文書については改定毎にMRより入手するか、医薬品医療機器総合機構ホームページよりダウンロードして対応する。 2) 緊急安全性情報などは、薬剤部ニュース及び病棟担当薬剤師より主治医へ情報提供される。 3) 医薬品(毎月発行)に関連情報を記載している。また、電子カルテ内に掲載し、職員がいつでも閲覧できるようになっている。	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年62回
・ 研修の主な内容： 1) 新しい医療機器の導入時の研修 ＜脳波分析装置 BIS＞ 平成23年11月24日 ＜シリンジポンプ CSP-110＞ 平成24年1月12日 ＜人工呼吸器 SiPAP＞ 平成24年2月16日～平成24年2月24日 ＜加温装置 ベアーハガー＞ 平成24年2月23日 ＜人工呼吸器 V60＞ 平成24年3月8日～平成24年3月28日 他 2) 特定機能病院における定期研修 ＜電気メス・除細動器 勉強会＞ 平成23年6月1日 ＜保育器定期点検 勉強会＞ 平成23年7月14日 ＜人工呼吸器 サーボi＞ 平成24年3月27日、平成24年3月28日 ＜人工呼吸器 ベネット760＞ 平成24年3月28日 ＜人工心肺 勉強会＞ 平成24年3月30日 他 3) その他必要に応じた研修 ＜電気安全の基礎＞ 平成24年1月12日 ＜補助人工心臓 ABIOMED＞ 平成23年8月24日 ＜ICD 勉強会＞ 平成23年5月10日 ＜エキシマレーザー 勉強会＞ 平成23年5月19日 ＜呼吸生理 勉強会＞ 平成23年7月19日 他	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有) ・ 保守点検の主な内容： 1) 人工心肺装置保守点検 平成23年10月実施 2) 閉鎖式保育器保守点検 平成23年7月実施	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 人工呼吸器の使用に関して、放射線治療装置との併用禁止の注意喚起を本体に貼り分かるようにした。 2) 膜型血漿分離器の誤使用を防ぐため、外箱に注意喚起シールを貼り分かるようにした。	

医薬品の安全使用のための業務チェックリスト

2010年4月改訂

2011年4月改訂

2012年4月改訂

一医薬品の安全使用のための業務チェックリスト(調剤室)一

記入者名

実施年月日 年 月 日

設定 2008. 4

改訂 2012. 4

【概要】

1.0 基本事項

- 患者の個人情報を守秘する対策等が図られている
- 時間外の調剤への対応がととのっている
- 院内の理念、基本方針を遵守している
- 決定事項等を迅速に薬剤部職員に周知徹底している
- 各部署の業務内容を定期に調査し、見直している
- 採用医薬品を薬剤部で一元管理している
- 医薬品マスターの管理に関与している
- 病棟に担当薬剤師を配置している

1.1 保有している設備とその保全

- 地震、防火等の対策が整備されている
- かごのかかる貯蔵設備を有している
- 冷暗貯蔵のための設備を有している
- 調剤室等室の明るさが十分に確保されている
- 各機器、設備は定期に保守点検が行われ、その結果が記録されている
- 薬剤部でインターネットが利用できる
- 集塵装置、局所排気等の職員の健康に関する設備が整備されている。
- 散剤分割分包機を有している
- 薬剤部専用のFaxを有している
- 薬剤部専用のパソコンを有している
- 自動薬袋作成機を有している
- 自動錠剤分包機を有している
- 薬剤部専用のシュレッダーを有している
- 薬剤部専用の複写機を有している
- 薬剤情報提供用のカラー印刷機を有している
- 換気が十分であり、かつ室内を常に清潔に保っている

1.2 コンピュータシステムの導入

- 散剤鑑査システムを導入している
- 錠剤鑑別、文献検索等のシステムを導入している
- 液剤鑑査システムを導入している

1.3 教育・研修

- 薬剤部で勉強会等を定期に開催している
- 電話での適正な疑義照会の仕方について指導している
- 院内外の学会、研修会等への出張が認められている
- 定期購読等図書購入費が認められている
- 日本医療薬学会等の「認定薬剤師」、「研修施設の認定」の取得を支援している
- (財)日本薬剤師研修センターの「研修認定薬剤師」の取得を支援している
- 各自研究テーマを持ち、積極的に取り組んでいる

1.4 勤務体制

- 平日宿直している
- 祝日、土曜日、日曜日宿直している
- 祝日、土曜日、日曜日直直している

1.5 診療報酬が認められている業務

- 調剤
- 外来患者への薬剤情報提供

1.6 作成している業務マニュアル

- 調剤過誤防止マニュアル
- 麻薬及び向精神薬取り扱いマニュアル
- 特定生物由来製品の管理マニュアル

1.7 院内各種委員会への参画

- 薬事委員会
- 院内感染防止対策委員会
- リスクマネジメント専門部会
- 褥瘡対策チームへの参画(診療報酬が認められている業務)

1.8 地域薬剤師会との連携

- 院外処方せんを発行している
- 院外薬局からの疑義照会の対応の仕方が確立している
- 地域薬剤師会との緊急連絡の対応の仕方が確立している
- 病院と地域薬剤師会との連絡協議会を設置(定期開催)している
- 「おくすり手帳」等を活用している

1.9 医療廃棄物処理

- 一般廃棄物、感染廃棄物、医療廃棄物を分別し廃棄している
- 患者情報が記載された「もの」について適切に廃棄している
- 有効期限切れ、使用残薬剤、投与中止、処方変更による未使用の薬剤を薬剤部(科)で処理している

【医薬品の採用】

2.0 採用医薬品の選定

- 薬事委員会に参画している
- 名称、外観類似の回避等使用安全確保の観点から評価している

2.1 医薬品情報の収集

- 添付文書等を収集している
- 新規採用医薬品のヒヤリングをしている
- 副作用の初期症状についての情報を収集している

2.2 医薬品情報の解析と評価

- 医薬品の安定性や製剤特性等について検討している
- 患者へ提供すべき医薬品情報について検討している
- 類似名称、外観類似等医療事故の誘発因子になる可能性の有無について検討している
- 保管上の問題点について検討している

3.0 麻薬

- 「麻薬譲渡証」を2年間保存している
- 麻薬譲渡証の商品名、数量、製造番号と現品とを照合している
- 麻薬譲渡証の記載事項及び押印等を確認している
- 麻薬の外箱に証紙による封緘を確認している
- 麻薬(規格単位)毎に購入量、製造番号(ロット番号)、購入年月日、卸業者の名称を麻薬管理簿に記載している

3.1 在庫管理

- デッドストックを防止している
- 定期的に棚卸しを実施している
- 先入れ・先出しの原則を徹底している
- 災害時に必要な医薬品をリストアップし、一定の在庫量を確保している。
- 添付文書に記載されている貯法を遵守し、24時間空調等対策が施されている
- 医薬品管理室、医薬品庫及び調剤室、冷蔵庫等の温度をモニターしている
- 期限切れが間近な未使用医薬品を可能な限り返品処理又は有効利用している
- 破損処理を適切にしている
- 盗難、紛失を防ぐための対策が施されている

3.1.1 麻薬

- 金庫は周囲の状況から見て安全な鍵のかかる部屋に設置している
- 麻薬保管庫は麻薬専用とし、他の医薬品や書類等を一緒に入れていない
- 麻薬保管庫は、出し入れのとき以外は必ず施錠している
- 受払管理簿の残数と現在庫数を毎日照合している
- 薬剤毎に受領年月日、施用又は交付年月日、受払数量、払出先、現在庫数、患者氏名(ID番号)を麻薬管理簿に記載している
- 所有している麻薬を廃棄するときは、「麻薬廃棄届出書」を知事あてに提出している
- 麻薬の廃棄は、麻薬監視員立ち会いの上廃棄し、管理簿に記載している
- 薬剤返還理由書と不要になった麻薬を受け取り、廃棄簿又は麻薬管理簿に記載し、第三者立ち会いの上粉砕等し、廃棄している

鍵は関係者のみ周知の場所に保管している

3.1.2 覚せい剤原料

金庫等施錠可能な保管庫に保管している

所有している覚せい剤原料を廃棄するときは、「覚せい剤原料廃棄届出書」を知事あてに提出している

覚せい剤原料の廃棄は、覚せい剤監視員立ち会いの上廃棄し、管理簿に記録している

薬剤(第1種、第2種)毎に受払年月日、受払数量、払出先、患者氏名、現在庫数、受払者氏名をノート等に記載している

3.1.3 向精神薬

金庫等施錠可能な保管庫に保管している

薬剤(第1種、第2種)毎に受払年月日、受払数量、払出先、患者氏名、現在庫数、受払者氏名をノート等に記載している

不要になった向精神薬を受け取り、第三者立ち会いの上粉砕等し廃棄している

廃棄した向精神薬の品名、数量及び年月日を記録し、その記録を保管している

3.1.4 毒薬

法規に基づいて適切に表示し保管している

鍵のかかる場所に施錠し保管している

3.1.5 劇薬

法規に基づいて適切に表示し保管している

3.1.6 特定生物由来製品

添付文書に基づいて適切に保管している

3.2 供給管理

医薬品の品質を確認し供給している

原則、注射剤も含め処方せんにより交付している

各診療科の特徴を考慮し、定数配置薬の供給方法(セット交換方式又は補充方式)を決めている

各診療科の使用量、使用頻度等を考慮し、定数配置薬の種類とその在庫数を決めている

麻薬、覚せい剤原料、向精神薬、毒薬、特定生物由来製品は必要最小量を処方するように指導している

3.3 処置薬

定期に有効期限、使用期間をチェックしている

3.4 患者持参薬の管理

持参薬について薬剤師が鑑別し、その情報を医師等に提供している。

電子カルテ内に「持参薬鑑別報告書」を入力している。

持参薬が採用医薬品でないときは、同一成分又は同効薬等についての情報を提供している

持参薬への対応の仕方が確立している

【調剤】

4.0 処方せんの受付・点検

リスクの高い薬剤(補尿病治療薬、抗てんかん薬、抗悪性腫瘍剤、強心薬、抗不整脈薬、ワーファリン等)初回処方時には、患者情報等を電子カルテで確認している

4.1 患者情報に基づいた処方せんの解析評価(内用・外用剤)

用法・用量、投与日数等が添付文書から逸脱していないかどうかチェックしている

患者氏名、年齢、現疾患名と処方薬及び用量を照合し、適正かどうか解析している

重複投与、投与禁忌、相互作用等の有無をチェックしている

投与期間が適切かどうかチェックしている

処方薬の安定性、配合変化等について解析している

4.2 疑義照会

疑義照会に関する手順書を作成している

疑義内容を簡潔に要領よくまとめてから処方医に照会している

処方医に疑義照会の意図を正確に伝え、理解を得、納得した上で処方訂正している

訂正及び変更内容を処方せんの備考欄等に記載している

必要により訂正及び変更内容を看護師に連絡している

疑義照会経過(日時、薬剤師・医師氏名、疑義内容、変更・訂正の内容等)を記録している(薬歴簿等)

4.3 薬袋又はラベルの作成(内用剤・外用剤)

処方毎に処方薬の量及び剤型に応じた薬袋、容器、ラベル等を選択している

調剤年月日、患者氏名、診療科名、投与開始日、用法・用量等記載している

- 薬剤師の氏名、調剤済、調剤年月日を記載している
- 冷所、遮光等の保存方法を記載している
- 「必ず水に溶かして服用」、「多くの水で服用」等の服用時の注意事項を記載している
- 与薬スケジュール表の貼付等の工夫をしている

4.4 計数調剤(内用剤・外用剤)

- 処方せんと薬袋等を照合している
- 処方せん1使用単位毎に処方薬を薬袋又はケース等に取り揃えている
- 遮光対策を施している

4.5 計量調剤(内用剤・外用剤)

- 散剤を秤量する計量器のゼロ点の調整、水平確認等の確認を毎日実施している
- 処方せんと薬袋等の患者氏名を照合している
- 賦形剤を添加するルールを定め、添加したときは処方せんに種類と量を記録している
- 倍散、倍液、原末、製剂量等、処方せんに記載されている用量を確認している
- 錠剤やカプセル剤のつぶした数量を処方せんに記録している
- 粉碎した錠剤等はふるいをかけ他の散剤と混合している
- 乳鉢、乳棒、分包機等に付着した薬剤との相互汚染に注意している
- 配合変化表を掲示している

4.6 調剤済薬剤の鑑査(内用剤・外用剤)

- 二重鑑査を実施している
- 処方せんの記載事項と薬袋、ラベル等への記載事項を照合している
- 処方せんに記載されている薬剤名と調剤済薬剤とを照合している
- 薬袋等の種類と数をチェックしている
- 分包されている散剤の色や形状等をチェックしている
- 分包された散剤に異物等が混入していないかチェックしている
- 散剤が均一に分包されているかチェックしている
- 処方変更、疑義照会の回答等が処方せんに記載されているかチェックしている
- チェックしたエラーについて、その内容をメモしている

4.7 調剤済薬剤の交付(内用剤・外用剤)

- 薬袋への記載内容及び文字等の工夫をしている
- 便や尿の色が変わる等生理的变化について記載した文書(パンフレット等)を添付している
- 口腔剤、舌下錠、点鼻剤、点眼剤、坐剤、吸入剤等の用法についてわかりやすく記載した文書(パンフレット等)を添付している

4.8 調剤過誤防止対策

- 散薬瓶や調剤棚等に貼付するラベルは、判別しやすい文字を用いている
- 冷所に保管する薬袋及びラベルには〇冷等の印をつけている
- 糖尿病治療薬、向精神薬が処方されている薬袋、ラベル等に〇向、〇精等の印をつけている
- 散薬瓶等に貼付するラベルには医薬品名の他に規格や常用量等を表示している
- 名称、外観等類似している医薬品は隣接して配列することを避ける等の工夫をしている
- 散薬瓶、自動錠剤包装機等への充填は、複数人でラベルを確認し、充填記録帳等に充填年月日、医薬品名、実施者氏名を記載している
- 散薬瓶の充填機会を少なくするために小包装単位を購入し、可能な限りそのまま使用している
- 散薬瓶が空になってから充填している
- 散剤鑑査システムで出力されたプリントを処方せんに貼付している(導入している場合)
- 液剤鑑査システムで出力されたプリントを処方せんに貼付している(導入している場合)
- 錠剤やカプセル剤粉碎したときは、外した錠剤等のシート、混合した軟膏等のチューブ等を薬袋に添付している
- 混合不適薬剤一覧を掲示している
- 賦形剤の添加等調剤について、調剤指針を遵守している
- 各室の整理整頓を励行している
- 調剤機器を定期的に保守点検している
- 添付文書の注意事項の変更等について周知徹底している
- 調製後自己鑑査の実施を周知徹底している
- 調製した薬剤師と鑑査する薬剤師を異にしている(二重鑑査)
- 鑑査時に発見されたエラーについて記録している
- 鑑査時に発見されたエラーについて部員で情報を共有している(朝礼時等)
- 鑑査時に発見されたエラーについて定期的に分析を行い、対策を講じている
- 鑑査時に発見された誤って調剤された医薬品は一旦別に保管し、業務終了時等に調剤棚に戻している
- 医療事故や調剤過誤の症例報告を義務付けている
- 医療事故や調剤過誤等の原因について解析し、その防止対策を協議している
- 医療事故や調剤過誤が起きたときの迅速な対応について周知徹底している

5.0 院内感染対策

- 薬剤師がICTの一員として活躍している。
- 適切な消毒薬を選択している
- 開封後の消毒液を適正に管理している
- 薬剤部(科)から抗菌薬、消毒薬等の使用に関する情報を提供している
- 院内における抗菌薬使用の指針や基準が定められている
- 院内検出菌の推移、抗菌薬感受性の推移等定期的に調査している
- 抗菌薬の使用状況調査を実施している
- MRSA 感染症治療薬の使用状況を把握している

【教育】

6.0 卒前実習

- 卒前実習生を受け入れている
- 卒前実習のカリキュラムを作成している
- 実習生の評価をしている
- 実習テキストを作成している

17.0 卒後研修

- 卒後研修生を受け入れている
- 卒後研修のカリキュラムを作成している
- 研修生の評価をしている
- 実習テキストを作成している

* 業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

備考欄	医薬品安全管理 責任者印

-医薬品の安全使用のための業務チェックリスト(注射薬品補給室)-

記入者名

実施年月日 年 月 日

設定 2008.4

改訂 2010.3

【概要】

1.0 基本事項

時間外の調剤への対応がととのっている

1.1 保有している設備とその保全

- かぎのかかる貯蔵設備を有している
- 冷蔵貯蔵のための設備を有している
- 調剤室等室の明るさが十分に確保されている
- 薬剤部でインターネットが利用できる
- 薬剤部専用のFaxを有している
- 薬剤部専用のパソコンを有している
- 薬剤部専用のシュレッダーを有している
- 薬剤部専用の複写機を有している
- クリーンルームを有している
- クリーンベンチを有している
- クリーンベンチの浮遊塵及び細菌を定期検査している
- 安全キャビネットを有している
- 安全キャビネットの浮遊塵及び細菌を定期検査している

1.2 教育・研修

- 電話での適正な疑義照会の仕方について指導している
- 院内外の学会、研修会等への出張が認められている
- 日本医療薬学会等の「認定薬剤師」、「研修施設の認定」の取得を支援している

1.3 勤務体制

- 平日宿直している
- 祝日、土曜日、日曜日宿直している
- 祝日、土曜日、日曜日直している

1.4 診療報酬が認められている業務

- 高カロリー輸液の無菌調製
- 抗悪性腫瘍剤の無菌調製

1.5 作成している業務マニュアル

- 薬品管理マニュアル
- 注射薬品補給室マニュアル
- 輸液調製マニュアル
- 抗悪性腫瘍剤調製マニュアル

1.6 院内各種委員会への参画

- 薬事委員会
- リスクマネジメント専門部会
- 医療ガス安全管理委員会
- 情報処理委員会

【医薬品管理】

2.0 購入管理

- 採用医薬品の使用量から発注量を決めている
- 発注書と納品を照合している
- 納品の商品名、剤形、数量、規格単位、包装単位、製造番号を確認している
- 納品の製造年月日と使用期限を確認している
- 納品の破損の有無、外観を検査している
- JGSP を実践している医薬品卸業者との間で購入契約を結んでいる

2.0.1 向精神薬(第1種及び第2種)

- 薬剤(規格単位)毎に購入量、購入(返品)年月日、在庫量、購入者氏名を小伝票等に記載している
- 納品書を保管している

2.0.2 毒薬

- 薬剤(規格単位)毎に購入量、購入(返品)年月日、在庫量、購入者氏名を小伝票等に記載している
- 納品書を保管している

2.0.3 特定生物由来製品

- 製剤毎に規格単位、製造番号(ロット番号)、購入量、購入年月日を小伝票等に記載している
- 納品書を保管している

2.1 在庫管理

- 医薬品が適切に配置及び表示されているかチェックしている
- 普通薬、劇薬、毒薬、向精神薬、麻薬、覚せい剤原料、特定生物由来製品に分類し保管している
- 錠剤、散剤、液剤、外用剤、注射剤等の剤型毎に分類し保管している
- デッドストックを防止している
- 定期的に棚卸しを実施している
- 先入れ・先出しの原則を徹底している
- 添付文書に記載されている貯法を遵守し、24 時間空調等対策が施されている
- 期限切れが間近な未使用医薬品を可能な限り返品処理又は有効利用している
- 医薬品の在庫配置図等を作成している
- 破損処理を適切にしている
- 盗難、紛失を防ぐための対策が施されている

2.1.1 向精神薬

- 金庫等施錠可能な保管庫に保管している
- 薬剤(第1種、第2種)毎に受払年月日、受払数量、実施年月日、払出先、患者氏名、現在庫数、受払者氏名を管理表に記載している
- 廃薬・返品した向精神薬の品名、数量及び年月日を記録し、その記録を保管している

2.1.2 毒薬

- 法規に基づいて適切に表示し保管している
- 鍵のかかる場所に施錠し保管している
- 冷所保存品は施錠可能な保冷庫等に保管している
- 筋弛緩薬は薬剤(第1種、第2種)毎に受払年月日、受払数量、実施年月日、払出先、患者氏名、現在庫数、受払者氏名を管理表に記載している

2.1.3 劇薬

- 法規に基づいて適切に表示し保管している

2.1.4 特定生物由来製品

- 添付文書に基づいて適切に保管している
- 薬剤毎に受払年月日、ロット番号、払出先、患者氏名、実施年月日、払出数量、受払者氏名を管理表に記載している

2.2 供給管理

- 医薬品の品質を確認し供給している
- 原則、注射剤も含め処方せんにより交付している
- 各診療科の特徴を考慮し、薬剤の供給方法(定数配置等)を決めている
- 各診療科の特徴を考慮し、定数配置薬の供給方法(セット交換方式又は補充方式)を決めている
- 各診療科の使用量、使用頻度等を考慮し、定数配置薬の種類とその在庫数を決めている
- 麻薬、覚せい剤原料、向精神薬、毒薬、特定生物由来製品は必要最小量を処方するように指導している
- 抗悪性腫瘍剤、覚せい剤原料は各診療科(部)に定数配置していない

2.3 使用管理

- 麻薬、覚せい剤原料、向精神薬(第1種、2種)、毒薬について、誰が、何を、いつ、誰に、どのくらい使用したか、麻薬施用票、診療科の帳票(管理簿等)を毎日確認している
- 施錠の有無を確認している
- 患者の氏名(ID番号)、住所、使用した特定生物由来製品の名称、製造番号(ロット番号)、数量、使用年月日を使用管理簿に記載している
- 特定生物由来製品の名称と製造番号(ロット番号)から使用した患者の氏名(ID番号)及び使用年月日が検索できるシステムを構築している
- 特定生物由来製品の使用管理簿を20年間保管している
- 記録の保存を電子媒体でするときには、常に紙媒体で確認できるようにしている
- 盗難、紛失、破損等の事故発生状況の報告をお願いしている

2.3.1 処置薬

- 定期に有効期限、使用期間をチェックしている

2.3.2 救急薬

- 救急薬の種類及びその数量等について各診療科と協議し、決めている
- 定期に有効期限又は使用期間をチェックしている

【調剤】

3.0 患者情報に基づいた処方せんの解析評価(注射剤)

- 投与回数、投与方法、投与経路、投与速度、投与時間等が添付文書から逸脱しているかどうかチェックしている
- 患者氏名、年齢、体重等の患者情報と処方薬及び用量を照合し、適正かどうか解析している
- 投与期間が適切かどうかチェックしている
- 注射剤混合後の安定性及び配合変化をチェックしている

3.1 疑義照会

- 処方医に疑義照会の意図を正確に伝え、理解を得、納得した上で処方訂正している
- 訂正及び変更内容を処方せんの備考欄等に記載している
- 必要により訂正及び変更内容を看護師に連絡している
- 疑義照会経過(日時、薬剤師・医師氏名、疑義内容、変更・訂正の内容等)を記録している(薬歴簿等)

3.2 計数調剤(注射剤)

- 処方せん1使用単位毎に、必要な注射剤をトレイや薬袋等に取り揃えている
- 遮光袋等の添付品をつける等遮光対策を施している
- 管理表を用いてダブルチェックしている医薬品は抗悪性腫瘍剤、ジゴシン、投与間隔が定められた医薬品、名称が似ている医薬品をしている

3.3 無菌調製(注射剤)

- 配合変化表を作成し、確認している
- 無菌室(クリーンルーム、クリーンベンチ等)で注射剤を混合調製している
- クリーンベンチ内に消毒用アルコールを噴霧し消毒している
- 注射器、フィルター等の使用器材を無菌室内に配置している
- 混合する注射剤をトレイ等に入れ消毒用アルコール等で消毒し無菌室に搬入している
- 手指を洗浄しマスク、帽子、専用衣を着用して混合調製している
- 処方せんとラベルの患者氏名及び取り揃えた注射剤を照合している
- 処方せんの1使用単位毎に必要な薬剤を計量し、混合調製している(抗悪性腫瘍剤、高カロリー輸液の注射剤含む)
- ゴム穿刺部位を消毒し、専用キャップあるいは滅菌シールを貼付している
- 処方せん1使用単位毎にラベルを添付している
- 混合した実施者氏名、年月日、件数等業務内容を記録している
- 使用済み注射針、連結管、アンプル等を専用容器に入れ医療廃棄物として廃棄している
- 定期的に無菌室の落下菌、浮遊塵量等を検査している

3.3.1 無菌調製済薬剤の鑑査(注射剤)

- 二重鑑査を実施している
- 処方とラベルを再度照合し、患者氏名、処方薬、用量、投与方法、投与時間、投与速度等をチェックしている
- 使用済み空アンプル等の残量をチェックしている
- 色調、析出物、異物、液漏れ等をチェックしている

3.3.2 調剤過誤防止対策(注射剤)

- 用量単位がmg,mEq等からmLへの換算が複雑な場合には、溶液量を記載している
- 麻薬、インシュリン製剤、混合後不安定な薬剤等の混合しない薬剤について、その旨を処方せん(病棟控え)に記載している
- セットする注射剤の用量が1本の整数倍でない場合は、用量にアンダーライン等の印を付けている
- 無菌室等の整理整頓を励行している
- 調製後自己鑑査の実施を周知徹底している

*業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

備考欄	医薬品安全管理 責任者印

-医薬品の安全使用のための業務チェックリスト(薬品情報室)-

記入者名

実施年月日 年 月 日

設定 2008. 7

改訂 2011. 4

【概要】

1.0 基本事項

- 患者の個人情報を守秘する対策等が図られている
- 薬剤師配置基準を満たしている
- 採用医薬品を薬剤部で一元管理している
- 医薬品マスターの管理に関与している

1.1 保有している設備とその保全

- 専用の医薬品情報室を設置している
- 薬剤部でインターネットが利用できる
- 薬剤部専用のFaxを有している
- 薬剤部専用のパソコンを有している
- 薬剤部専用のシュレッダーを有している
- 薬剤部専用の複写機を有している
- 薬剤情報提供用のカラー印刷機を有している

1.2 コンピュータシステムの導入

- 錠剤鑑別、文献検索等のシステムを導入している
- 診療支援システムが利用できる

1.3 教育・研修

- 薬剤部で勉強会等を定期に開催している
- 院内外の学会、研修会等への出張が認められている
- 各自研究テーマを持ち、積極的に取り組んでいる

1.4 診療報酬が認められている業務

- 褥瘡対策チームへの参画

1.5 作成している業務マニュアル

- 入院患者の持参薬取り扱いマニュアル

1.6 院内各種委員会への参画

- 薬事委員会
- 医療保険委員会
- 臨床検査委員会
- 褥瘡委員会

1.7 地域薬剤師会との連携

- 地域薬剤師会との緊急連絡の対応の仕方が確立している
- 採用医薬品の一覧を公開している
- 病院と地域薬剤師会との連絡協議会を設置(定期開催)している

【医薬品の採用】

2.0 採用医薬品の選定

- 薬事委員会で審議し、採用医薬品を決定している
- 名称、外観類似の回避等使用安全確保の観点から評価している
- 採用医薬品の品目数の上限を設定している(一増一減の厳守)
- 採用医薬品以外で院外処方する医薬品についても薬事委員会で審議している

2.1 新規採用医薬品の申請

- 医師の「新規採用医薬品申請書」等を薬事委員会事務局(薬剤部(科))で受け付けている
- 申請された医薬品の適切な情報を収集している
- 薬価算定の評価(類似薬等)を参考にしている
- 収集した医薬品情報を適切に解析している
- 薬事委員会等を定期(臨時有)に開催している

2.2 医薬品情報の収集

- 添付文書、インタビューフォーム、製品概要等を収集している
- 新規採用医薬品のヒアリングをしている
- 医薬品安全性情報等安全性に関する医薬品情報を収集している
- 同種同効薬の年間使用量を調査している
- 臨床試験、非臨床試験のデータを収集している
- 副作用の初期症状についての情報を収集している
- 同種同効薬について必要な医薬品情報を収集している
- 市販される新薬の動向を調査している
- 学術雑誌、学会誌等からも医薬品情報を収集している
- 新聞、雑誌、書籍等からも医薬品情報を収集している

2.3 医薬品情報の解析と評価

- 臨床試験データに基づいて有効性を検討している
- 有用性について同種同効薬と比較検討している
- 医薬品の安定性や製剤特性等について検討している
- 過量投与等による急性中毒(重篤な副作用の発現の有無)について検討している
- 高齢者、小児、妊産婦等への使用上注意すべき点について検討している
- 患者へ提供すべき医薬品情報について検討している
- 類似名称、外観類似等医療事故の誘発因子になる可能性の有無について検討している
- 保管上の問題点について検討している
- 院内の採用削除薬の代替、同種同効薬等について検討している
- 添加剤、溶解剤等製剤的物性について検討している
- 薬物動態学及び薬力学の視点から有効性、安全性について検討している
- 腎機能、肝機能への影響について検討している
- 非臨床データ(毒性、有害事象等)について検討している
- モニターすべき副作用の初期症状及び臨床検査値を検討している
- 作用機序等から副作用を予測している
- 包括支払い方式の導入に伴う経済的(収益性)有用性について検討している

2.4 薬事委員会

- 委員会の事務局を薬剤部(科)に置いている
- 委員会で使用する適切な資料を薬剤部(科)で準備している
- 委員会に提出された資料を薬剤師が説明している
- 採用可否について薬剤師としての意見を明確に述べている
- 資料に基づき医薬品の採否を審議している
- 審議内容が把握できる議事録を作成している
- 審議結果を各診療科に通知している
- 適宜、採用医薬品を見直している
- リスクの高い医薬品の適正な使用基準を決めている

2.5 採用医薬品の見直し

- 削除医薬品の過去1年間の使用量を調査している
- 使用量に合わせて包装単位を見直している
- オーフアンドラッグ、緊急処置薬、特殊薬剤を一覧表にしている

2.6 新規及び削除採用医薬品の事務手続き及び広報

- レセプト等事務手続きのために必要な情報を提供している
- 医薬品管理マスターに登録している
- 院内及び地域薬剤師会に文書等で連絡している

3.0 患者持参薬の管理

- 持参薬について薬剤師が鑑別し、その情報を医師等に提供している
- 持参薬が採用医薬品でないときは、同一成分又は同効薬等についての情報を提供している
- 持参薬への対応の仕方が確立している

3.1 医薬品管理諸統計帳票

- 医薬品別使用患者数

【安全管理】

4.0 医薬品情報

- 医薬品情報の収集・整理・保管管理及び情報の加工と専門的評価をしている
- 院内情報誌、医薬品集、印刷物(パンフレット)等を通じて情報提供を積極的に行っている
- 医療従事者からの質疑に対する情報を収集し応答している
- 質疑応答の内容を記録している
- 必要に応じ質疑応答の関連文献を収集解析し雑誌等に報告している
- 副作用情報を的確に収集している

- 医薬品緊急安全性情報、医薬品等安全性情報を医師等へ迅速に文書により伝達している
- 常時、医薬品に関する問い合わせに対応している
- 医薬品、家庭用品及び農薬等の中毒情報を収集、整理し、活用している
- 院内医薬品集を作成し、必要に応じ改定し、追補を発行している
- 新規採用医薬品の情報を速やかに提供している
- 院内で収集した副作用を検討し、必要により厚労省へ報告している

5.0 医療機関からの副作用等の報告

- 下記の事例の様な医薬品の使用による事象が起きたときには厚生労働省に報告している
 - 死亡、障害、治療のための入院又は延長が起きたとき
 - 使用対象者の子に先天異常が認められたとき
 - 添付文書に記載されていない事象が起きたとき など
- * 業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

備考欄	医薬品安全管理 責任者印

—医薬品の安全使用のための業務チェックリスト(製剤室)—

記入者名

実施年月日 年 月 日

設定 2008. 4

改訂 2010. 3

1.0 保有している設備とその保全

- かぎのかかる貯蔵設備を有している
- 冷暗貯蔵のための設備を有している
- 製剤室の明るさが十分に確保されている
- 各機器、設備は定期的に保守点検が行われ、その結果が記録されている
- 薬剤部でインターネットが利用できる
- オートクレーブを有している
- 感熱滅菌器を有している

2.0 作成している業務マニュアル

- 院内製剤調製マニュアル

3.0 劇薬

- 法規に基づいて適切に表示し保管している

3.1 在庫管理

- デッドストックを防止している
- 定期的に棚卸しを実施している
- 先入れ・先出しの原則を徹底している
- 医薬品庫及び冷蔵庫等の温度をモニターしている

3.2 供給管理

- 医薬品の品質を確認し供給している
- 注射剤も含め、必要に応じ処方せんにより交付している

【院内製剤】

4.0 特殊製剤の調製

- 医師からの依頼を受け、薬剤部(科)での製剤が可能かどうか検討している
- 院内の倫理委員会(院内製剤検討委員会等)で審議している
- 製剤の有用性及び安全性についての情報(文献等)を収集している
- 期待される有用性と考え得る危険性について処方医と協議している
- 患者使用への経費負担等について十分検討している
- 製剤の安定性等を考慮した処方設計について検討している
- 汚染及び品質劣化を防止するための滅菌装置やクリンルーム等の設備が整っている
- 品質試験を行い、品質の保証に努めている(異物混入の有無、pH試験等)
- 通常の調剤済薬剤と同様に、薬袋やラベルに適切な内容を表示して患者に交付している
- 製剤調製記録及び製剤上問題点等を記録している

* 業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

備考欄	医薬品安全管理 責任者印

－医薬品の安全使用のための業務チェックリスト(外来用)－

実施年月日

年 月 日

臓器別診療科:	記入者名:	／ 薬剤師名
---------	-------	--------

- デッドストックを防止している
- 先入れ・先出しの原則を徹底している
- 破損処理を適切にしている
- 盗難、紛失を防ぐための対策が施されている

1.1 向精神薬・毒薬・劇薬

- 該当なし
- 金庫等施錠可能な保管庫に保管している

1.2 麻薬

- 該当なし
- 施錠されている
- 鍵は決められた場所に保管されている(スペアキーも含む)
- 責任者により定期的に鍵の保管状況の確認が行われている

1.3 特定生物由来製品

- 該当なし
- 添付文書に基づいて適切に保管している
- 「特定生物由来製剤使用連絡票」を用いて使用記録をしている

2.0 配置薬

- 定期の有効期限、使用期間をチェックしている

*業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

備考欄	薬剤部 医薬品安全管理 責任者印

— 医薬品の安全使用のための業務チェックリスト(病棟用) —

実施年月日
年 月 日

病棟名:	記入者名:	／ 薬剤師名
------	-------	--------

1.0 在庫管理

- デッドストックを防止している
- 先入れ・先出しの原則を徹底している
- 破損処理を適切にしている
- 盗難、紛失を防ぐための対策が施されている

1.1 向精神薬・毒薬・劇薬

- 該当なし
- 鍵は関係者のみ周知の場所に保管している

1.2 麻薬

- 該当なし
- 施錠されている
- 鍵は決められた場所に保管されている(スペアキーも含む)
- 責任者により定期的に鍵の保管状況の確認が行われている

1.3 特定生物由来製品

- 該当なし
- 添付文書に基づいて適切に保管している
- 使用した医薬品のロット番号を処方せんに記載している

2.0 配置薬

- 定期(3月・9月)に有効期限、使用期間をチェックしている

3.0 救急薬

- 救急薬の種類及びその数量等について各診療科と協議し、決めている
- 救急カートへの医薬品の配置や表示に工夫を施している
- 救急薬の請求伝票と在庫量を照合し補充している

4.0 患者持参薬の管理

- 持参薬への対応の仕方が確立している

5.0 リスクマネジメント

- 病棟での薬剤に関するアクシデント・インシデント事例に基づき、薬剤師と今後の対応策を協議している
- 病棟での副作用事例について、薬剤との因果関係など今後の対応策等を協議している

* 業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

備考欄	薬剤部 医薬品安全管理 責任者印

— 医薬品の安全使用のための業務チェックリスト(医長用) —

実施年月日
年 月 日

臓器別診療科:

記入医師名:

1.0 医薬品の安全管理責任者

医薬品の安全管理を確保するため「医薬品安全管理責任者」が設置されているのを知っている

2.0 医薬品の採用・購入

医薬品の採用・購入に関する事項は薬事委員会で定めているのを知っている

3.0 有害事象の報告

下記の事例の様な医薬品の使用による事象が起きたときには厚生労働省に報告している
 死亡、障害、治療のための入院又は延長が起きたとき
 使用対象者の子に先天異常が認められたとき
 添付文書に記載されていない事象が起きたとき など

4.0 医薬品情報

医薬品緊急安全性情報、医薬品等安全性情報を知っている
 薬剤部ニュース、医薬品集、印刷物(パンフレット)等の情報提供を受けている

5.0 医薬品の安全使用のための研修

医薬品の安全使用のための研修(安全管理講習会等)を受けている

*業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

備考欄	薬剤部 医薬品安全管理 責任者印

— 医薬品の安全使用のための業務チェックリスト(薬事委員用) —

実施年月日
年 月 日

臓器別診療科:

記入医師名:

1.0 医薬品の安全管理責任者

医薬品の安全管理を確保するため「医薬品安全管理責任者」が設置されているのを知っている

2.0 医薬品の採用・購入

医薬品の採用・購入に関する事項は薬事委員会で定めているのを知っている

3.0 有害事象の報告

下記の事例の様な医薬品の使用による事象が起きたときには厚生労働省に報告している
 死亡、障害、治療のための入院又は延長が起きたとき
 使用対象者の子に先天異常が認められたとき
 添付文書に記載されていない事象が起きたとき など

4.0 医薬品情報

医薬品緊急安全性情報、医薬品等安全性情報を知っている
 薬剤部ニュース、医薬品集、印刷物(パンフレット)等の情報提供を受け、知っている

5.0 医薬品の安全使用のための研修

医薬品の安全使用のための研修(安全管理講習会等)を受けている

*業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

備考欄	薬剤部 医薬品安全管理 責任者印